



2019年度 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト 実施報告

2020年 3月

国土交通省 東北地方整備局
青森河川国道事務所

■実施概要

奥入瀬溪流の現状

奥入瀬溪流は、紅葉期など毎年たくさんの観光客が訪れる青森県を代表する観光地です。しかし、溪流のすぐ近くを道路が通っていることから、観光シーズンには多くのマイカーや観光バスの走行・駐車により、『歩行者の安全性低下や渋滞の発生』 更には『車両の走行音により「せせらぎの音」などの自然音がかき消されている』といった状況が見られます。



観光シーズンの混雑の様子

この状況を少しでも改善するために2018年より「奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト」を実施

【実施内容】

◆日時

2020年8月25日(土)～26日(日)

午前10時～午後2時

◆内容：①広域迂回のお願い(運送業対象)

②通行自粛のお願い(全車両対象)

昨年度からの主な改善内容

○シャトルバス利便性向上

- ・焼山～休屋間のシャトルバス直通運行化
- ・シャトルバス運行間隔20～30分
- ・シャトルバスチケット車内販売実施

○来訪者の散策環境の快適性向上

- ・“快適トイレ”導入による溪流区間設置の仮設トイレグレードアップ

○焼山・休屋地区周遊性向上

- ・休屋地区1箇所を含む全4箇所にスタンプ台設置、全箇所周遊者には帰宅時に特典を進呈するスタンプラリー開催

▼十和田西高観光科



▼NPO十和田奥入瀬郷づくり大学



- ・駐車場にマイカーを駐車
- ・プロジェクト参加受付
- ・シャトルバスやレンタサイクルに乗りかえ



8/24(土)・25(日)
両日共に10:～14:00

ボランティアガイドによる案内
「流れの名所体感コース」
(石ヶ戸～雲井の滝)

スタンプラリー
(焼山・石ヶ戸・子ノ口・休屋)

ボランティアガイドによる案内
「滝体感コース」
(子ノ口～雲井の流れ)

リストバンド提示で
商品割引などの特典

参加者へ“SNSへの写真投稿”
を呼びかけ
(次年度チラシ等への写真活用)



仮設トイレ
設置

シャトルバスを運行
焼山～休屋間
(20～30分間隔)



十和田湖遊覧船

十和田湖

子ノ口

休屋

リストバンド提示で
商品割引などの特典

せせらぎの音を守るため、
また渋滞解消のために、
運送業等への広域迂回の協
力をお願い

■実施状況【8/24・25当日の様子】

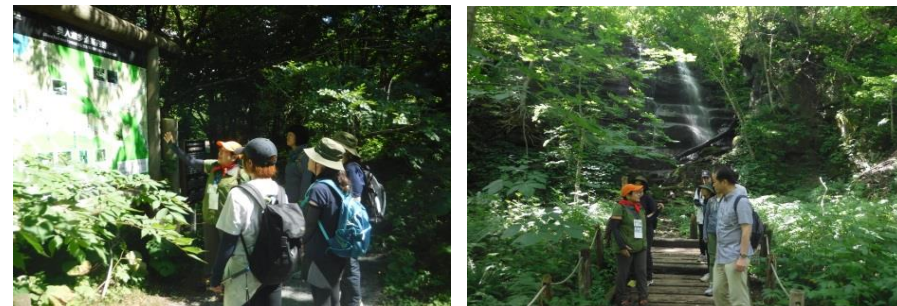
受付

焼山駐車場と奥入瀬渓流館駐車場の2か所で受付



滝体感コース

NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学さんがボランティアガイドとして案内



シャトルバス

プロジェクト期間中は焼山～子ノ口～休屋間でシャトルバスを運行

スタンプラリー

焼山・石ケ戸・子ノ口・休屋でスタンプラリーを開催。全地点スタンプを集めた方には奥入瀬サイダー、ポストカードをプレゼント



十和田西高等学校観光科の生徒さんがボランティアガイドとして案内

散策環境の快適性向上を目的に千筋の滝付近・銚子大滝付近に快適トイレを設置（これまででは一般的な仮設トイレ）

快適トイレ



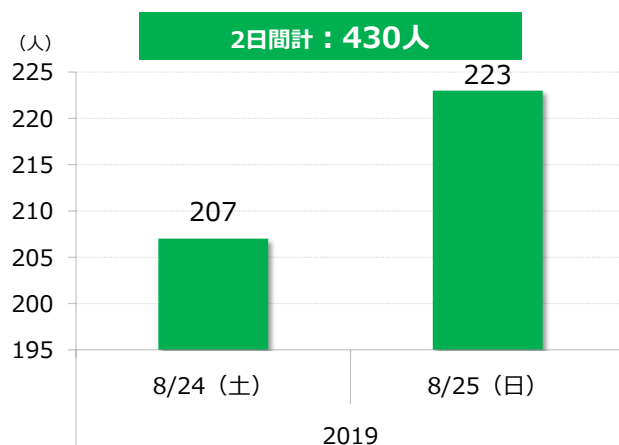
流れの名所
体感コース



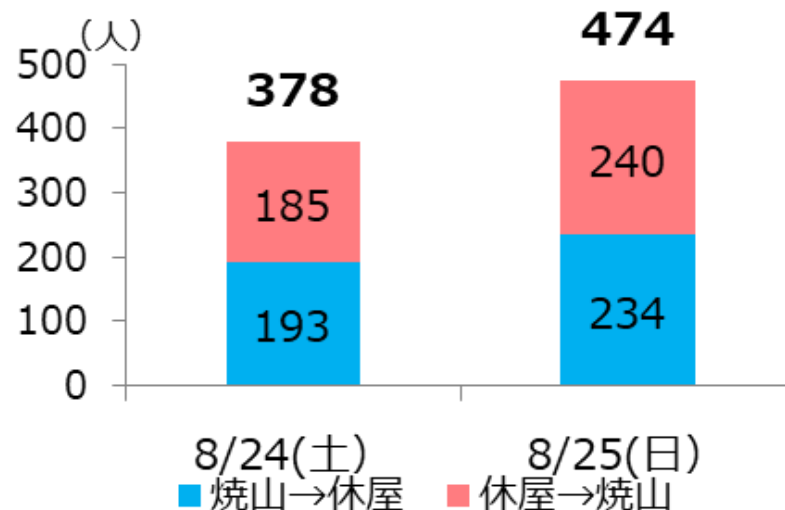
■実施結果① プロジェクト参加者数・シャトルバス利用状況

- プロジェクトの参加者数は2日間合計で430人。昨年度と比較すると参加者数は1.2倍に増加。
- プロジェクトのリピーターは昨年度と比較すると6ポイント増加し、本プロジェクト3カ年継続による影響と考えられる。
- シャトルバスの利用者は延べ852人であった。
- バス停別利用状況をみると、石ケ戸～銚子大滝の区間で多く乗降、休屋地区のバス停利用者数は、シャトルバスの直通運行、スタンプラリーの実施により昨年より大きく増加している。

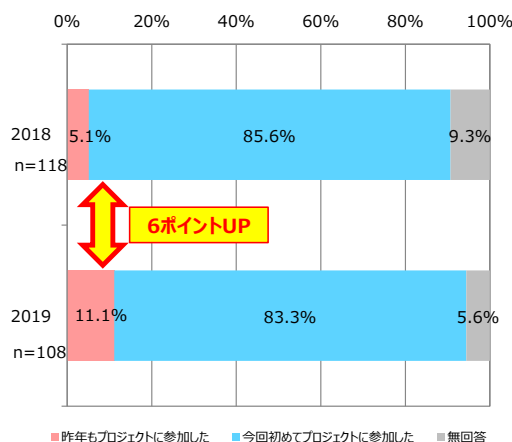
▼実施日別プロジェクト参加者数



▼シャトルバス日別延べ利用者数



▼プロジェクトリピーター



参加者の10人に
1人はリピーター

▼奥入瀬渓流をイメージしたアロマが香る
シャトルバスチケットを作成



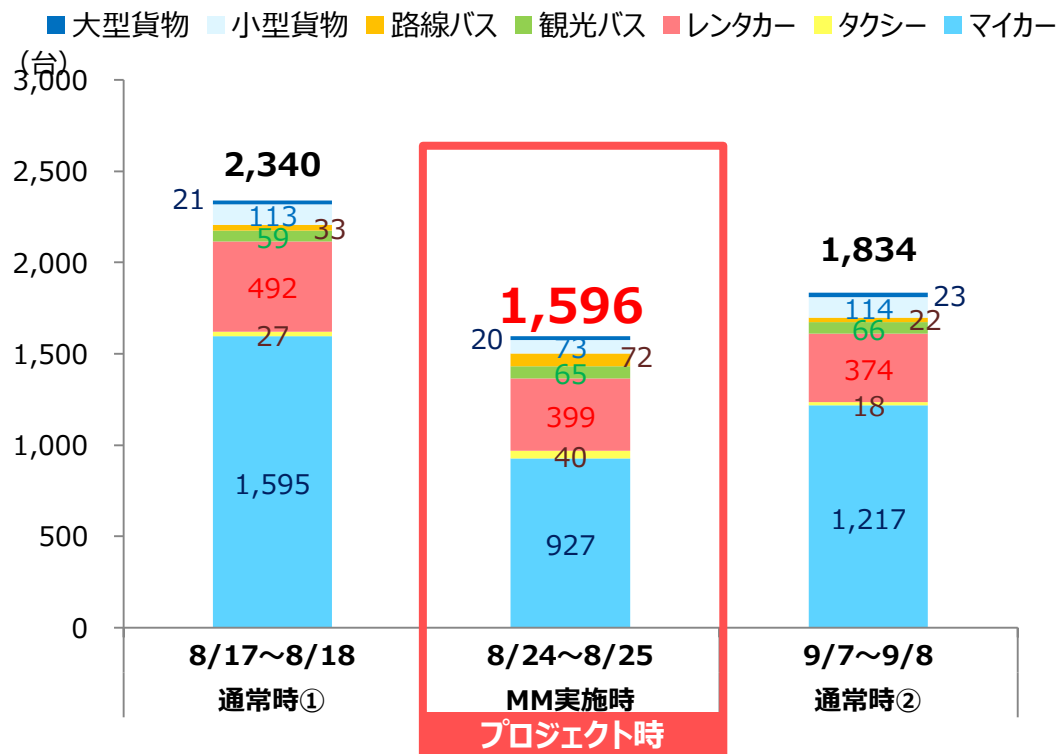
シャトルバスチケット販売状況
(小学生以下無料)

2日間計 332千円販売
参考) シャトルバス運行経費
1,600千円

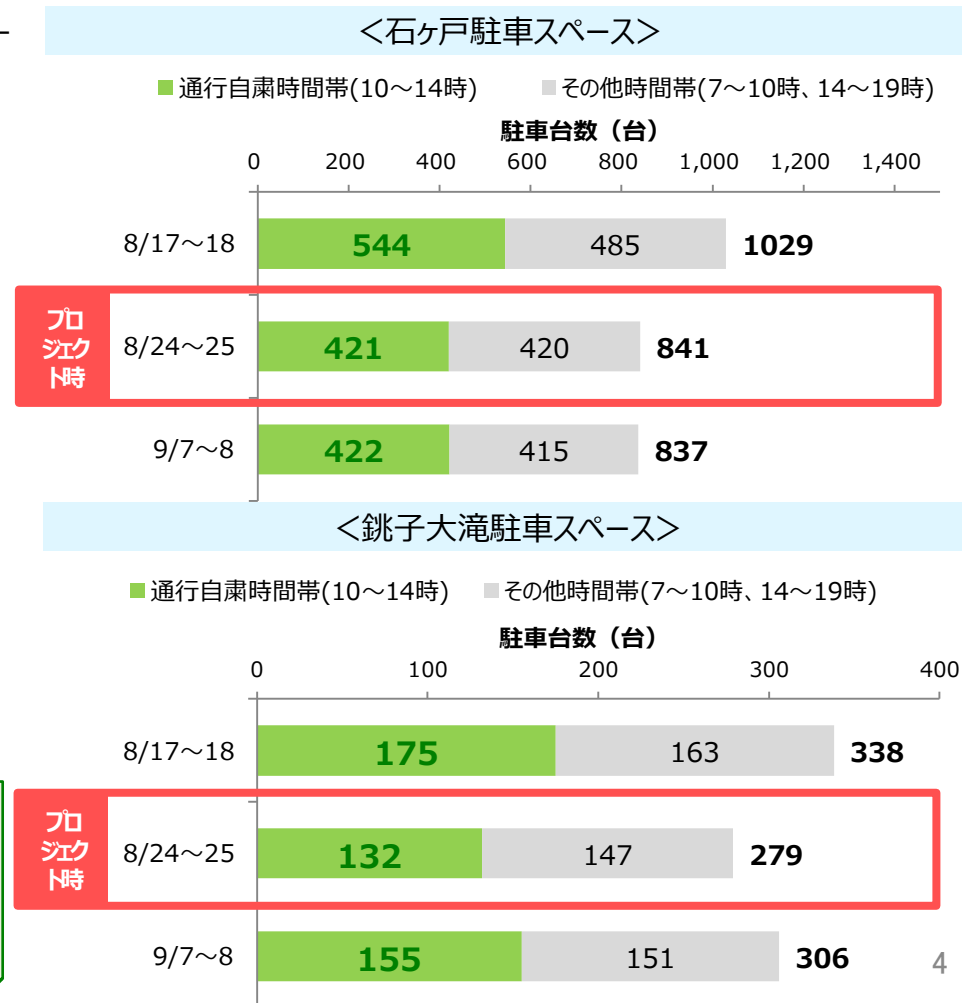
■実施結果② 交通実態調査結果（溪流区間通行量及び駐車車両）

- 溪流区間におけるプロジェクト実施時間帯（10時-14時）のマイカーは927台で通常時に比べると**約300～700台減少**、業務車両（小型貨物＋大型貨物）は93台で**約40台減少**している。
- 通行自粛時間帯における奥入瀬溪流区間の駐車車両状況は、**石ヶ戸駐車スペース、銚子大滝駐車スペースともに減少傾向となっていない。**

▼ 惣辺交差点子ノ口断面 10時-14時交通量2日間合計（自動二輪を除く）



▼ 奥入瀬溪流区間内駐車スペースの利用状況（2日間合計）



せせらぎ体感プロジェクトへご協力頂いた協会（敬称略・順不同）

- ・青森県トラック協会
- ・青森県バス協会
- ・青森県タクシー協会
- ・青森県レンタカー協会
- ・秋田県トラック協会
- ・秋田県レンタカー協会

■実施結果③ 音環境調査結果

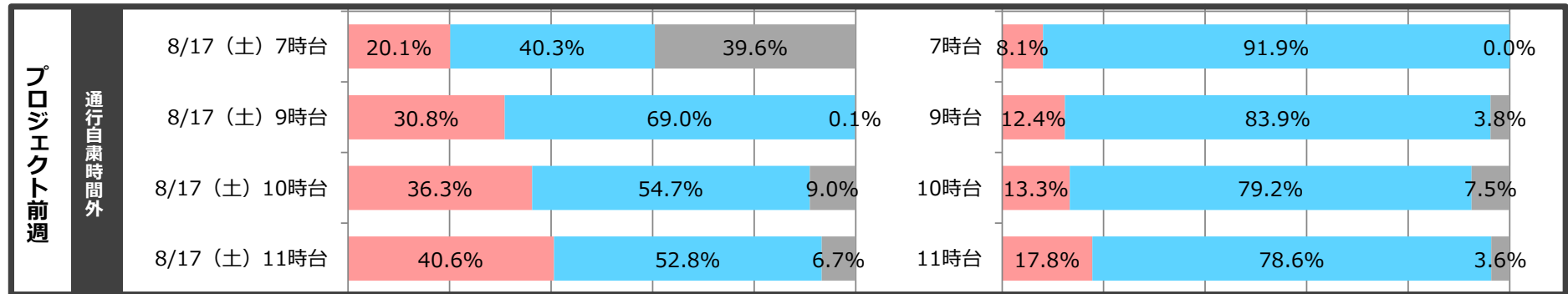
- 「阿修羅の流れ」・「千筋の滝付近」ともに、通行自粛時間帯である10時台、11時台においては自然環境音の出現割合が高まっている。
- 特に、「千筋の滝付近」での高まりが顕著であり、**自動車通行量削減により最大15ポイントの改善**が見られる。
- 通行車両が少ない7時台においては、自然環境音の出現割合が高くなっている。**通行車両の増加に伴い、自動車音の割合が高くなり、自然環境音の出現割合が低くなっている。

▼音種区分別出現頻度の比較＜千筋の滝付近＞

0% 20% 40% 60% 80% 100%

▼音種区分別出現頻度の比較＜阿修羅の流れ付近＞

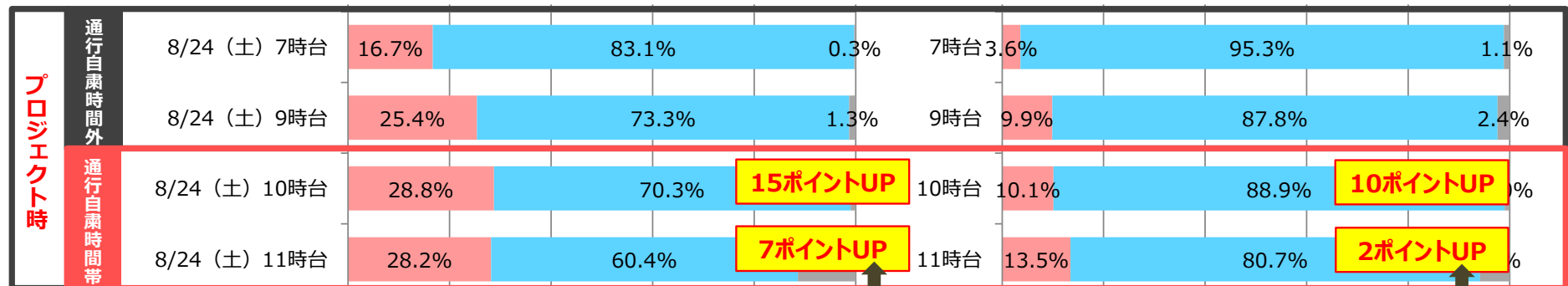
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■自動車音(阻害する音種) ■自然環境音 ■その他※

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■自動車音(阻害する音種) ■自然環境音 ■その他※

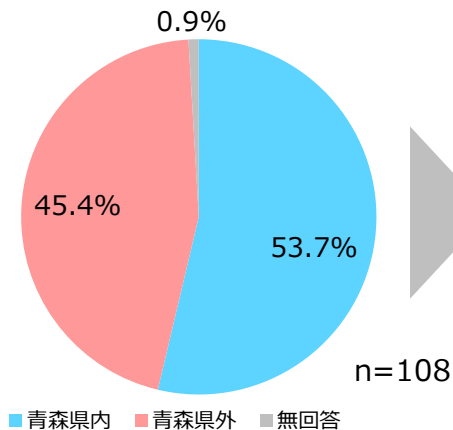
※その他の主な内容は“人の声”、“人の足音”、“自転車走行音”等

両地点のせせらぎ音の大きさは「阿修羅の流れ 65~68dB」、「千筋の滝 53~55dB」。自動車音等の影響を受けにくいのはせせらぎ音の大きい阿修羅の流れであり、そのため効果量も千筋の滝と比較し少ない傾向。

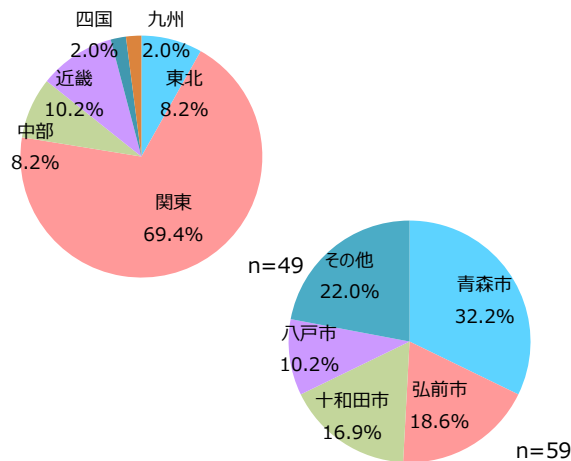
■実施結果④ 参加者アンケート（居住地・認知媒体・参加理由）

- プロジェクト参加者の居住地割合は、青森県内・県外がほぼ半数であり、県外のうち約7割は関東圏、県内は青森市が最も多く、次いで弘前市である。
- プロジェクトの参加動機は「シャトルバスの運行」が半数以上、「快適な散策環境」も約4割を占める。

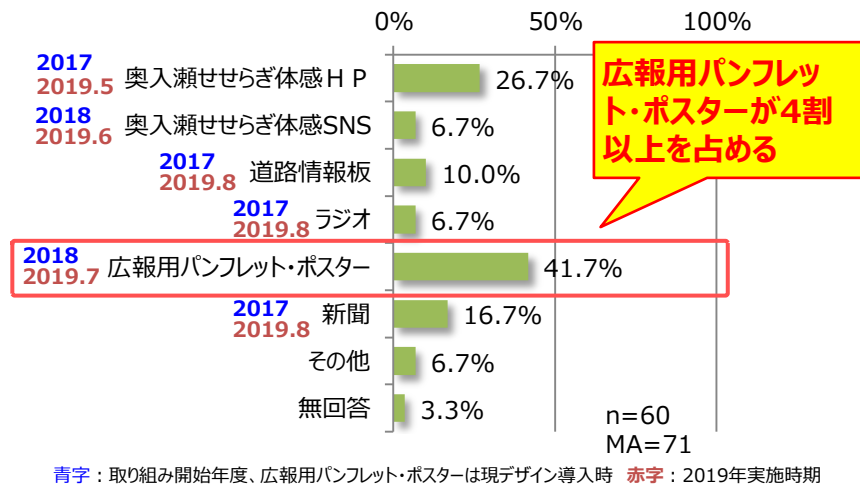
▼全プロジェクト参加者の居住地



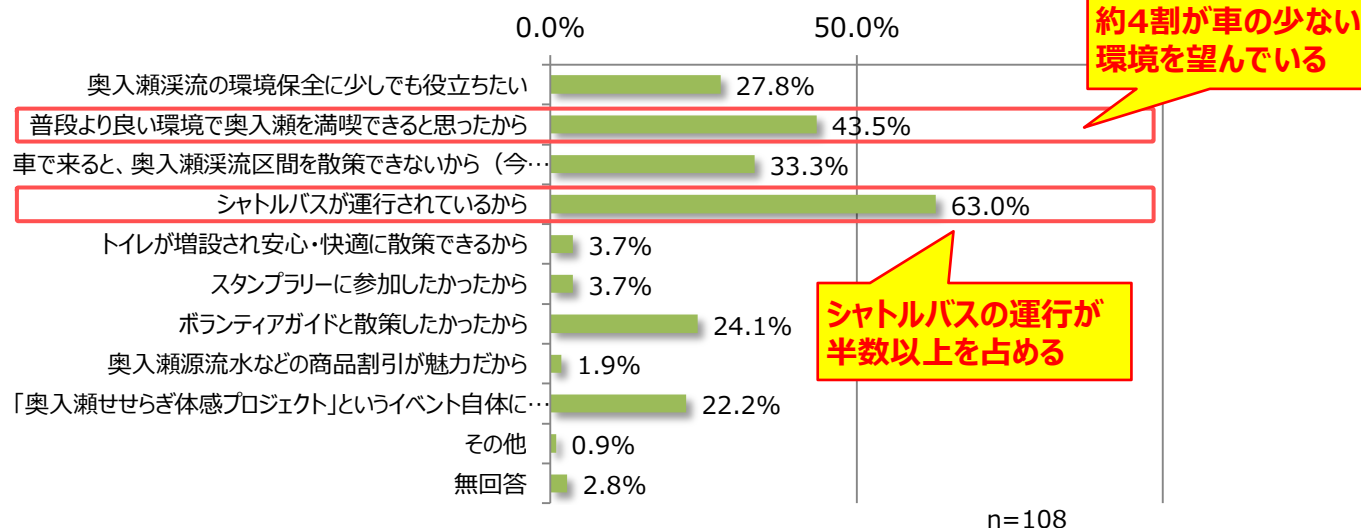
▼県外、県内居住地の内訳



▼プロジェクト参加者の認知媒体



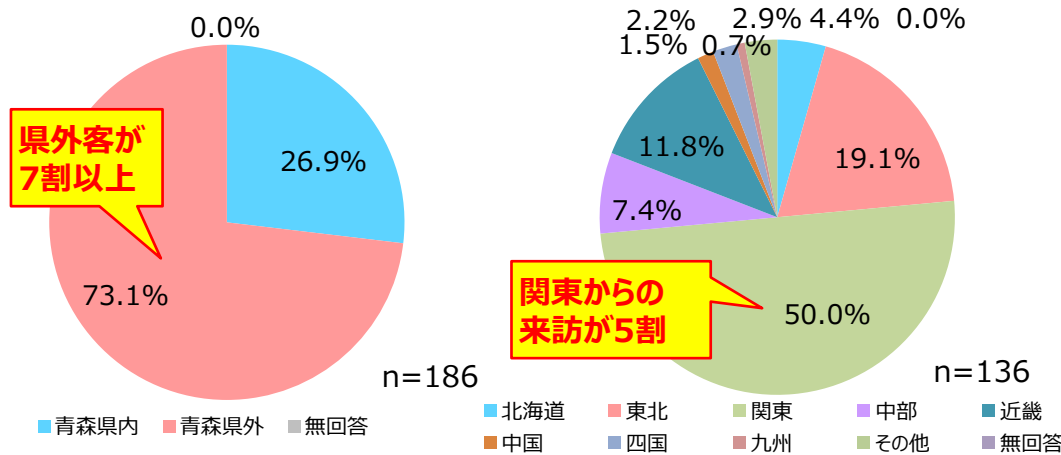
▼プロジェクト全参加者の参加理由



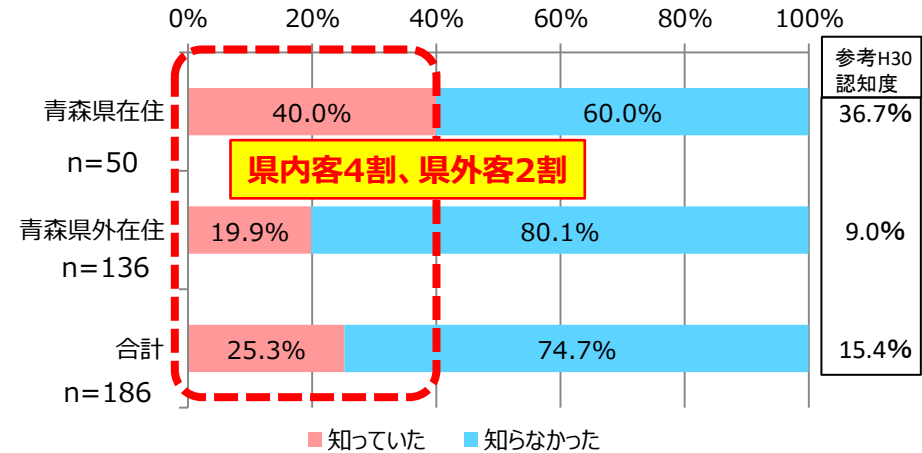
■実施結果⑤ 一般散策者（参加者以外）アンケート

- 一般散策者の約3割が青森県内、県外が7割以上を占め、関東からの来訪が5割を占めている。
- せせらぎ体感プロジェクトの認知度は、**県内客で40%、県外客20%、全体で25%、昨年度より上昇している。**
- プロジェクト賛同理由は「**奥入瀬の環境保全**」が最も多く、一方で、賛同しない理由は、**小さい子供や高齢者が同伴者**にいるからが3割以上を占める。

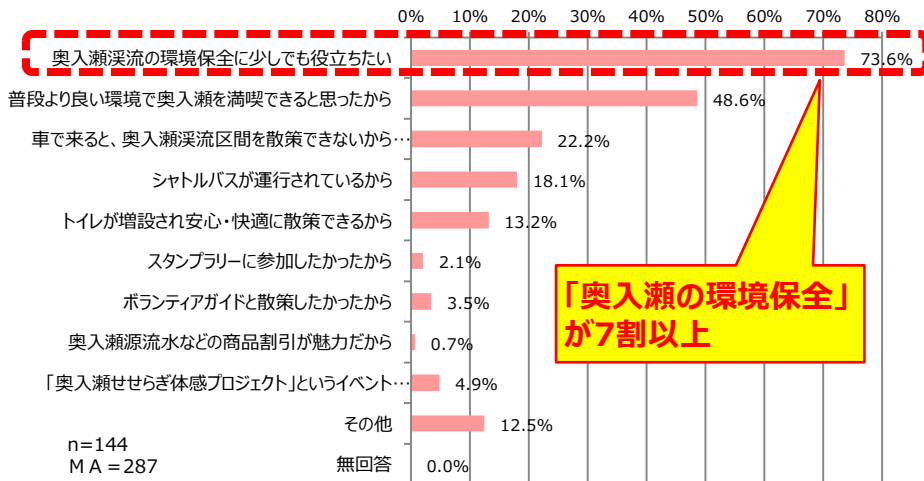
▼回答者の居住地



▼プロジェクトの認知度

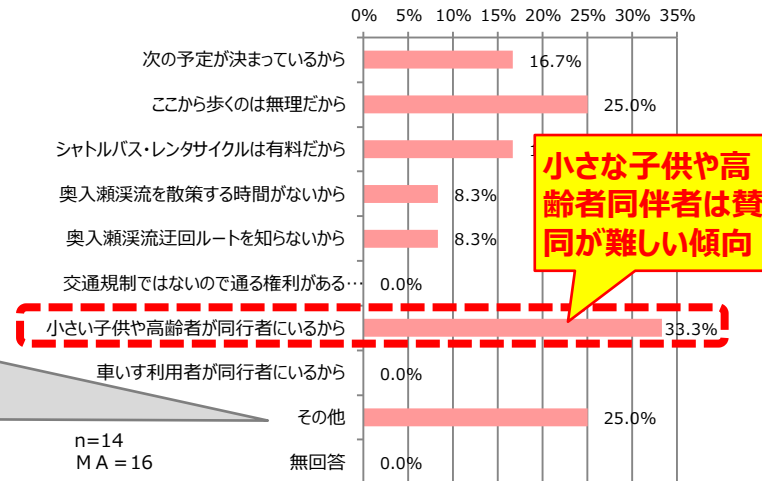


▼プロジェクトへ賛同する理由



・駐車場がない
・歩くのが難しい
・自分のペースで移動して写真を撮りたい
・他の観光地につながる道路を通れないのは嫌だ

▼プロジェクトへ賛同しない理由



■実施結果⑥ 外国人旅行者ヒアリング

- 外国人旅行者の国籍は台湾が7割以上、個人旅行の形態が多い傾向となっている。
- プロジェクトの認知度は8割以上が知らなかったとの回答であったが、7割以上がプロジェクトに賛同している。

